



ぷそにのうすいほん
pusonino-usuihon

勇者乾電池
yuusya-kanndennti 2017

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

彼には随分と世話になった
経緯は...まあ、たしかにある。
けれど、それとは別に彼の為に何か
できないものかと、これでも一応
懸命に考えたのだ。

そして、私はダーカーとの戦闘に
よって、慢性的に体内に
蓄積されるであろうDF因子を
射精によって排出する方法を
提案した...

ま、待ってくれ
いきなりはっ



そんなに目一杯
揉むからだ...っ

言い訳というわけではないが、
我ながら良い案だと思ったのだ。

これでも...

だが、想定外というか、
彼への奉仕は...とても、とても、
その...気持ちの良いものだった。

あ...っ
あ...っ
あ...っ



膣内射精の瞬間の、あの感覚…、あれは反則だろう。

知識を得て、理解したつもりでいても彼が私の名を呼びながら子宮に精液を吐き出した、その一瞬

もう何もかも忘れて彼のモノになってしまいたいという思いが心の中に溢れた。

どいっ♡

まっ
ま
ま♡

ま
ま
ま…♡

ん
あ
あ♡

ま
ま
ま

ま
ま♡

いつてる！
いつてるんだっ！
ダメ、動かないでくれっ

それは、ただの奉仕がセックスに変わった瞬間だと…うん、まあ…言えるかもしれない。



んんぐっ！
じゅん...んんぐっ、
あふ...んんぐっ、

わたしと彼の関係はどうやらアークス内でも
公認カップルみたいな...そんな感じになってて、
シエラちゃんにも、からかわれるみたいに
週何回えっちするの？って、聞かれちゃった...

当然笑って誤魔化したんだけど、
まったく進展していないことが顔にでちゃったのか、
サラがすごく心配な表情でわたしを見てた...。
ええと、それから2日後くらいだったかな...



んんぐっ
精液...濃いよお

夜に部屋に呼んでくれたのは...。
一生懸命だったんだよ？

だって、えっちのことなんて知らないもの。
それでも彼に気持ちよくなってもらおうって、
一生懸命がんばったんだから...

お願い、顔見ないでえー
嫌われちゃうっ
えっちな子だって思われちゃうっ

でも、すぐに無理してるのぼれちゃった…。

好きて気持ちばかり先走って
痛いとか怖いとか、頭の中が
ぐちゃぐちゃになって

えっちなながら
わたし、泣いちゃったの…。

んあ
んあ
んあ

んあ

…情けないなあ、わたし。
いつも誰かに心配ばかりかけちゃう。

けどね、彼が耳元で「大丈夫だよ」って
囁いてくれて…

そしたら急に、えっちな気持ち
がぐわ〜っ、溢れてきたの。

んあ
んあ
んあ

オレとセンパイが恋人同士になるなんてこと
星がひっくり返ってもありえない。

だいたい、オレみたいな男女
好きだっていうヤツいるわけないだろう？

当たり前じゃないか。

センパイの前では女の子らしくしようって
努力したって、あるわけないんだ。

絶対に……。

とっぴん♡

はぁ…

イって、センパイ
オレのお口に
ザーメン吐き出してっ

「っ」気持ちいいの？
あひっちゅんんの？

ぐわん♡

平気だよ
センパイがイクまで
ずっとこうしてあげる

だって…
髪型を変えたオレをはじめて見たときの、
センパイのその顔を見て、そんなことは
すぐにわかったから…。

期待なんてするわけない…。

そんなの余計に哀しくなるだけじゃないか。

けど…あれ？なんでオレ、
センパイとえっちらしてるんだ…。

とっぴん♡

とっぴん♡



センパイ好みの女の子になれるようにガンバルからオレをお嫁さんにして！！

好き…センパイ
大好き！！

えっと、なんでだっけ…？
えっと…。



オレの身勝手な告白を聞いたセンパイは…ぞうだ。

オレと同じことを言ったんだ。

自分が好かれていたなんて想像もしなかった…、って。

ぽっ…
ぽっ…



イクの汁もなく
な〜ん〜ん〜ん

赤ちゃんできなくて
思うだけで

滅茶苦茶だよな...

常識的に考えれば、手順ってものがあるだろう。

いきなり裸で好きですって言って
ダメだったらどうするつもり
だったんだよ、オレ。

N77/♡
N77/♡

だから、もう一度ちゃんと言わせて下さい。

大好きです...センパイ。
いつか、多分、かなり...えっと
すごく時間がかかるかもだけど、

オレ、センパイに似合う女のひとになれるよう
努力します。

だから、ずっと一緒にいて下さい...

HARRIET

わたくしとガーディアンの関係...ですか？

それは、なんと申しますか...その...

そう！利害関係ですっ！
ええ、そうなんです！
けしてたまたまの関係ではなくてですね...

すみません、嘘をつきました...



このように濃いザーメンを
射精されたら
確実に孕んでしまいますっ

いつでもどんな場所でも
お相手しますから
どうか！どうか
中出しだけは...



どうぞ、遠慮なく
わたくしの顔に
ぶっかけてくださいっ

なにぶん、騎士団でも男性と混じって剣を振るような
無骨な女ですから、性への興味はあっても
誰もそのように見てはくれません。

ですが、姫とはいえ、これでも女なのです...

卑しい目で見られて、性欲処理のために
殿方にこの身体を捧げることを
夢見たりもするのです...

お願いですっ！
何でもしますから
外へ！外へ射精してええっ！

んおおお…♡

…ですから、
わたくしたちの為に、その絶大な力を
行使してくださる、ガーディアンに
こう、尋ねました。

「差し出せるものはわたくしの身体だけ…」っ、
男性がその言葉をどう受け取るのかということとは
ええ…わかっているつもりでした。

孕みますっっっ！
孕みますっっっ！
妊娠いやあああ！

ですが、本当に毎夜…あ、いえ、
所構わず…が適切でしょうか、
セックスを求められるとは思
いもありませんでした。

その背徳感ときたら…。

んおおお♡

んおおお♡



あなた様のものになりません...
お願い!!

もう許してください!!

はじめの頃は、フェラチオやパイズリで満足していただいていたはずが、

実はその度、わたくしがイってしまっていたことを知られ...

そこからはもう性奴隷のように扱っていただきました。

もう、これ以上犯さないで...

事あるごとにわたくしはあえて、彼に懇願するのです。

「孕んでしまいます。外へ、膣外へ射精してください」と。

ガーディアンがより性器をたぎらせてわたくしに襲い掛かるとわかったうえで。

このまま永遠に彼の肉奴隷として生きていきたい。実はこの頃本気で思い始めているのだということは

...おほん、な、内緒ですよ?

はぁ...



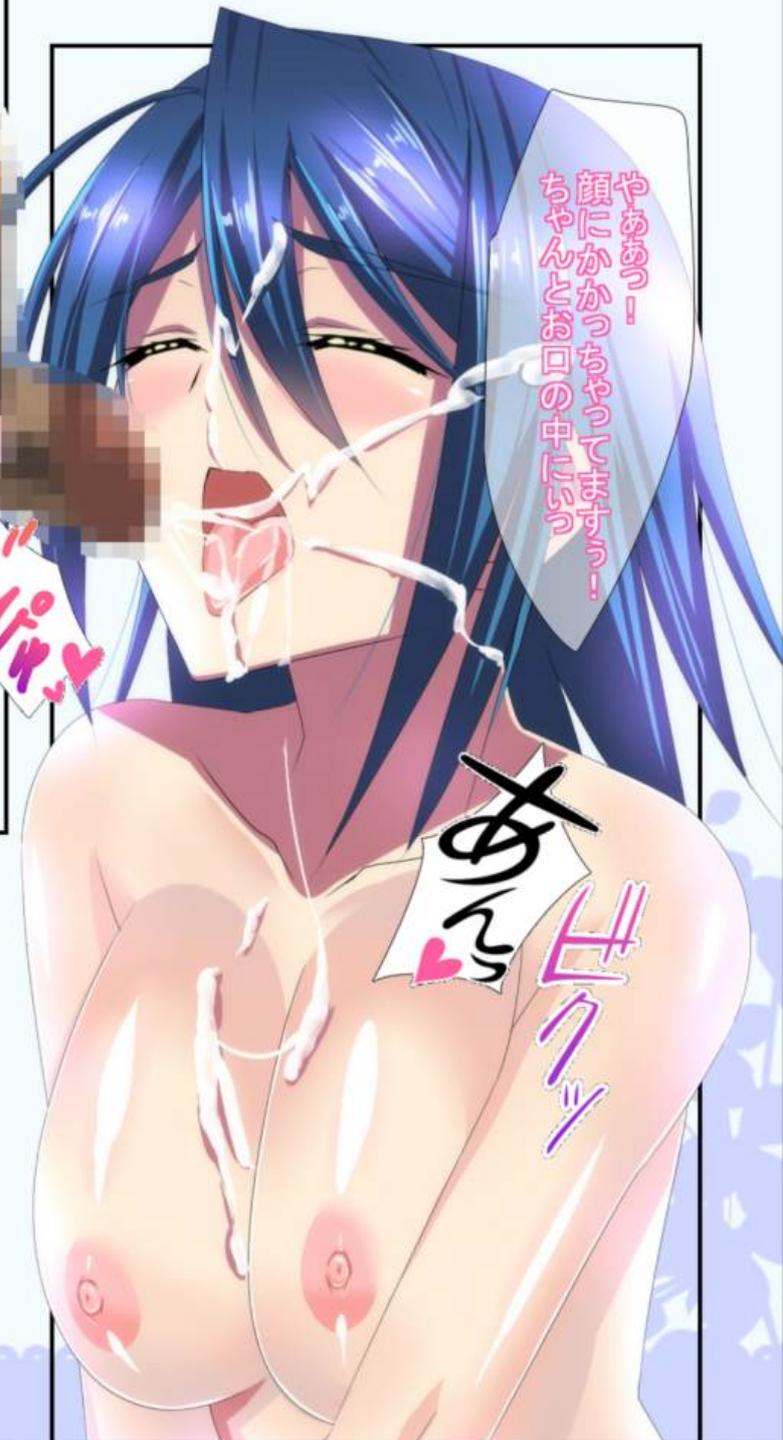
ヒーローに大切なもの…
それは奉仕の心、ですっ！

…と、いうことを改めて学ぶつもりで
あの人の任務に同行したのですが

う、うーん…。

言わなきゃダメですか？
ダメですよ、ね。
わかってました…。

はあ…。



ぜ、全部わたしがいけないんです！
あの人が所為じゃないですからっ！

え？わかってるって…きよ、恐縮です。

任務の途中で、わたしエネミーに捕まってしまっ
てかむあねもね？だったかな…服を、ですね…
落かされちゃって、
あげくあの人の目の前で犯されかけてしまっ

だって、あれ、媚薬みたいな息も吐くんですよ！
助けてもらって、がまんできなくなって…。
「えっちしてください」って、言っちゃいました。
恐縮です…。

え？え？え？
入れるのはナシって
言っただじゃないですかあ！

その後、あの人はわたしを心配して
部屋に連れ帰ってくれたんですけど、
シャワールームで粘液を洗い流していたら
思い出してしまっ…。

…オナニーしちゃいました。

だって、だって仕方ないじゃないですか！
ずっと憧れたったひとに
えっちな姿を見られて、
いっばいえっちしてもらえて、

すぐに余韻が抜けるわけじゃないですか…。
恐縮…です。

ぐちゃあ…

びしょあ…

当然、そんなのすぐに見つけて
ずっこい...ずっこい、えっちされました。

2回...えっと、4回、5回？

ピュルルル

ド
ッ♡♡

ん
あ♡♡

ピュルル

ペットに連れて行かれてからも
3回...もう、わかんないくらい
いっぱいえっちされました。

子宮口に押し付けて
射精しないで下さい

え？生理ですか？
あれ。
そういえば、まだ...
あ、あれ??

また射精してるうっ！
もう精子入りません
いっぱいですう
お腹苦しいのおおっ！





これ、そんなに
気持ちいいんですか？

わたしの悩みを聞いてくれますか？

その…ですね、
とっても言い辛いことなんですが、

リーダーがわたしと話すとき
いつも…
お、おち…お、おちんちんを
勃起させている…こと、なんです。



こんなにたくさん…

え？もつとですか？
リーダーえっち過ぎです

いいえ！迷惑じゃないですっ！

健康な男性なら当然のことだとい
くらしい知識は、ありますから…。

でも、恥かしい…です。

だって、だって！
ひくんひくんって、ずっとスポンを
押し上げてるのわかるから…。

ま、待って下さい
リーダー！

んっ♡

気持ちよくするだけ
つて約束……！
これ、赤ちゃん作るえっち
じゃないですかっ！

んっ♡

んっ♡
んっ♡

ある時、わたしの方からリーダーに
「おっばいで挟むくらいなら」……って
言ったんです。

それでお仕舞ならよかったです、
何回射精してもリーダーの
おちんちんは全然萎えなくて、

その日のうちに、初えっち……しちゃいました。

中出しはダメってちゃんと言ったのに、
射精する瞬間、リーダー……
わたしを抑えつけて

赤ちゃんのお部屋に

びゅー、びゅー……って。

んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡

んっ♡
んっ♡



あ……あ……あ……

いったいせんたい、どれだけ我慢したら
あんなに射精できるんですか？

ついには失神してしまったわたしを
それでも、リーダーは
犯し続けていました……。

アークスシップを歩いているときも
男のひとたちにえっちな視線を
送られていたけれど……。

もしかして、みなさん同じ……なんですか？

ど、どうしよう……。
みなさんの性欲を満たそうとしたら、
わたし……壊れちゃうかも。

ゴキッ
ゴキッ
ゴキッ

グッ
グッ
グッ



もう…信じてるれない
 こーういうのは恋人相手に
 しないさいよ！バカ！

彼が満足して、ようやく私を解放して
 くれたのは
 もう、目が昇った頃だったわ。
 まったく、どれだけセックスに
 飢えていたのかしらね。
 ……中に射精する度、「好き」って
 連呼しなくてもいいじゃない。
 この私が本気になったら
 責任、とってくれるのかしら…。
 ホントに、まったくもう。

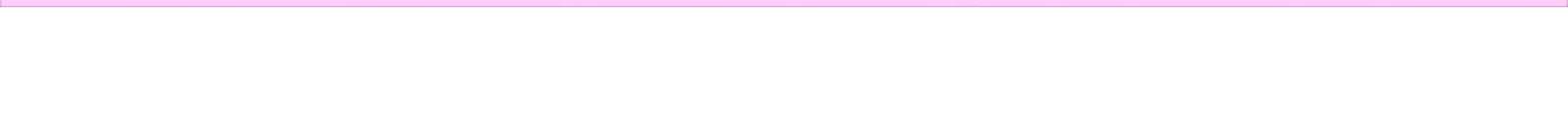
別に…イヤでは
 ないわよ…
 え？もう1回？
 もう…仕様がなないひとね





2017 サークル勇者乾電池

<http://yusyakandenti.wixsite.com/yusyakandenti>



以下、ヒロインたちのセックス体験談である。